

道の駅なみえの施設概要について

令和7年10月

道の駅なみえ概要

時期	
平成26年	浪江町復興まちづくり計画に浪江町交流・情報発信拠点施設として位置づけ
平成27年5月	基本計画策定開始
平成27年度	8月～3月に6回の検討委員会開催 基本計画決定
平成28年度	基本構想及び基本設計業務、地形測量
平成29年度	物件調査・補償額算定業務
平成30年度	用地買収開始 実施設計業務 敷地造成・建築工事開始
令和元年度	造成工事完了、外構工事開始 用地買収終了（指定管理予定者決定 令和元年8月）
令和2年度	外構工事完了、地域振興施設工事完了、8月1日一部供用開始（指定管理者協定締結 令和2年7月）
令和3年3月20日	地場産品販売施設完成 グランドオープン
令和3年12月12日	ラッキー公園 in なみえまち がオープン(全国初)

【施設概要】

(1)施設の名称 道の駅なみえ

(2)所在地 浪江町大字幾世橋字知命寺60

(3)面積 約34,000㎡

駐車場台数:小型車103台、大型車22台、身障者用3台

(4)施設

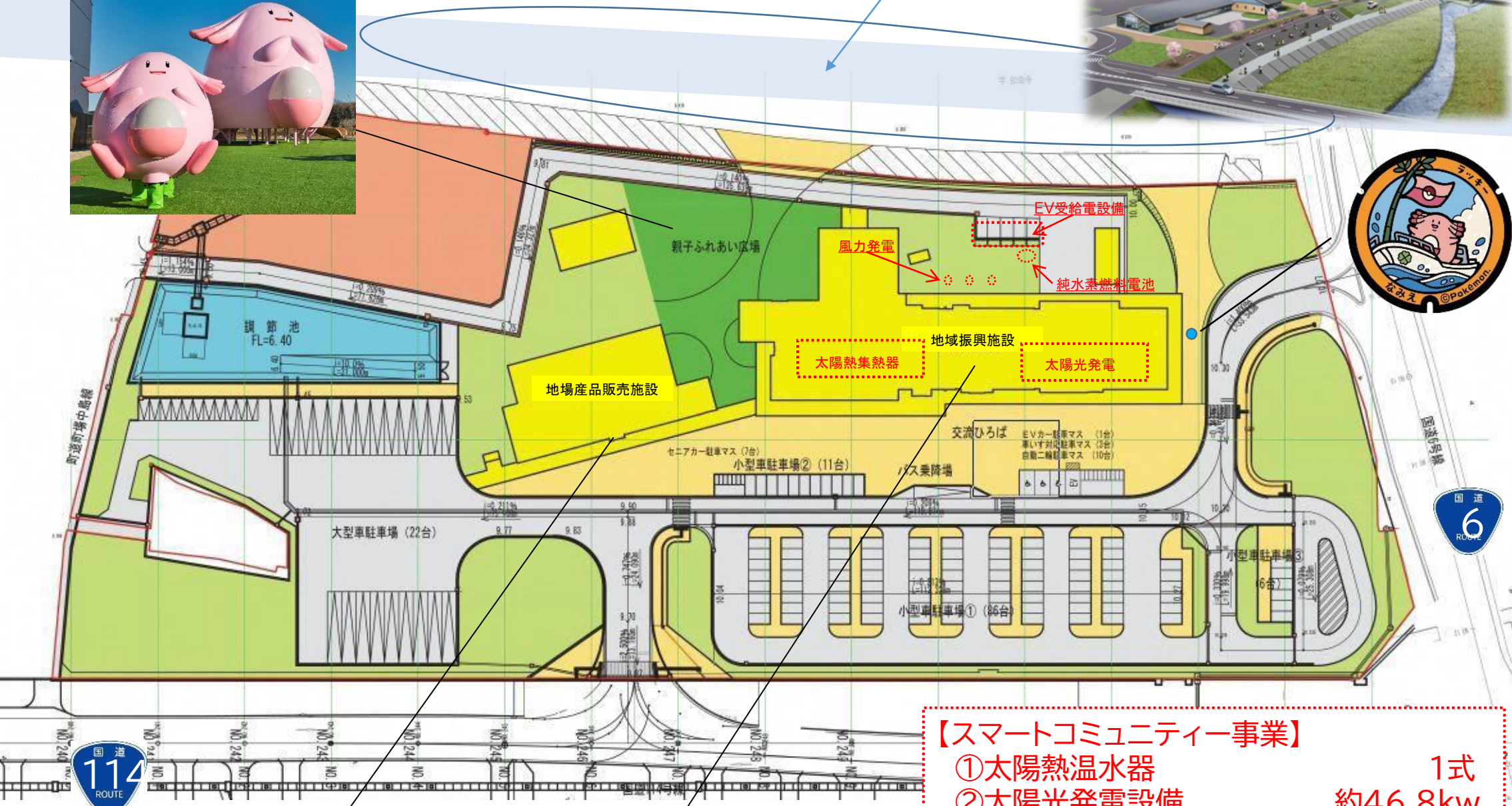
第1期整備 「地域振興施設」(面積約2,000㎡)

第2期整備 「地場産品販売施設」(面積約1,000㎡)

年間来場者 令和2年度:約16万人、令和3年度:約48万人、令和4年度:約56万人

【敷地配置図】

請戸川親水施設 整備主体:福島県
令和3年8月11日完成



「地場産品販売施設」
令和3年3月20日供用開始

「地域振興施設」
令和2年8月1日供用開始

- 【スマートコミュニティ事業】
- | | |
|-----------------|---------|
| ①太陽熱温水器 | 1式 |
| ②太陽光発電設備 | 約46.8kw |
| ③EV(電気自動車)充給電設備 | 5基 |
| ④小型風力発電設備 | 1kw×3基 |
| ⑤純水素燃料電池設備 | 3.5kw |
| ⑥CEMS・BEMS設備 | 1式 |

道の駅ロゴ



海と山、両方からなる浪江町を表したロゴデザイン。
道の駅には浪江の連山を、なみえには請戸の波をそれぞれに
組み合わせた親しみやすいデザインです。
外側の円形は海から出る日の出をイメージ。
浪江町では鮭が遡上することから、駅の部分に「鮭」が描かれた
簗を山頂に掲げています。



概要

木材をふんだんに使用し、木のぬくもりや香りに包まれた、居心地の良い空間づくりを目指しており、浪江産の新鮮な野菜や海産物などを購入できる「産地直売所」や、なみえ焼そばをはじめとした“浪江のグルメ”を楽しめる「フードコート」では、数々の“浪江の逸品”を満喫することができます。

「郷土料理研修室」には、さまざまな調理機器を導入し加工品の試作ができ、「大会議室」では各種会議、イベントなどに利用されています。「交流広場」では各種イベントが定期的に行われており賑わいを創出しており、また、無印良品を展開する株式会社良品計画様との連携協定により、無印良品としては**全国初**の道の駅への出店をしています。

いりどり産直いなほ



フードテラス



郷土料理研修室



大会議室



交流広場

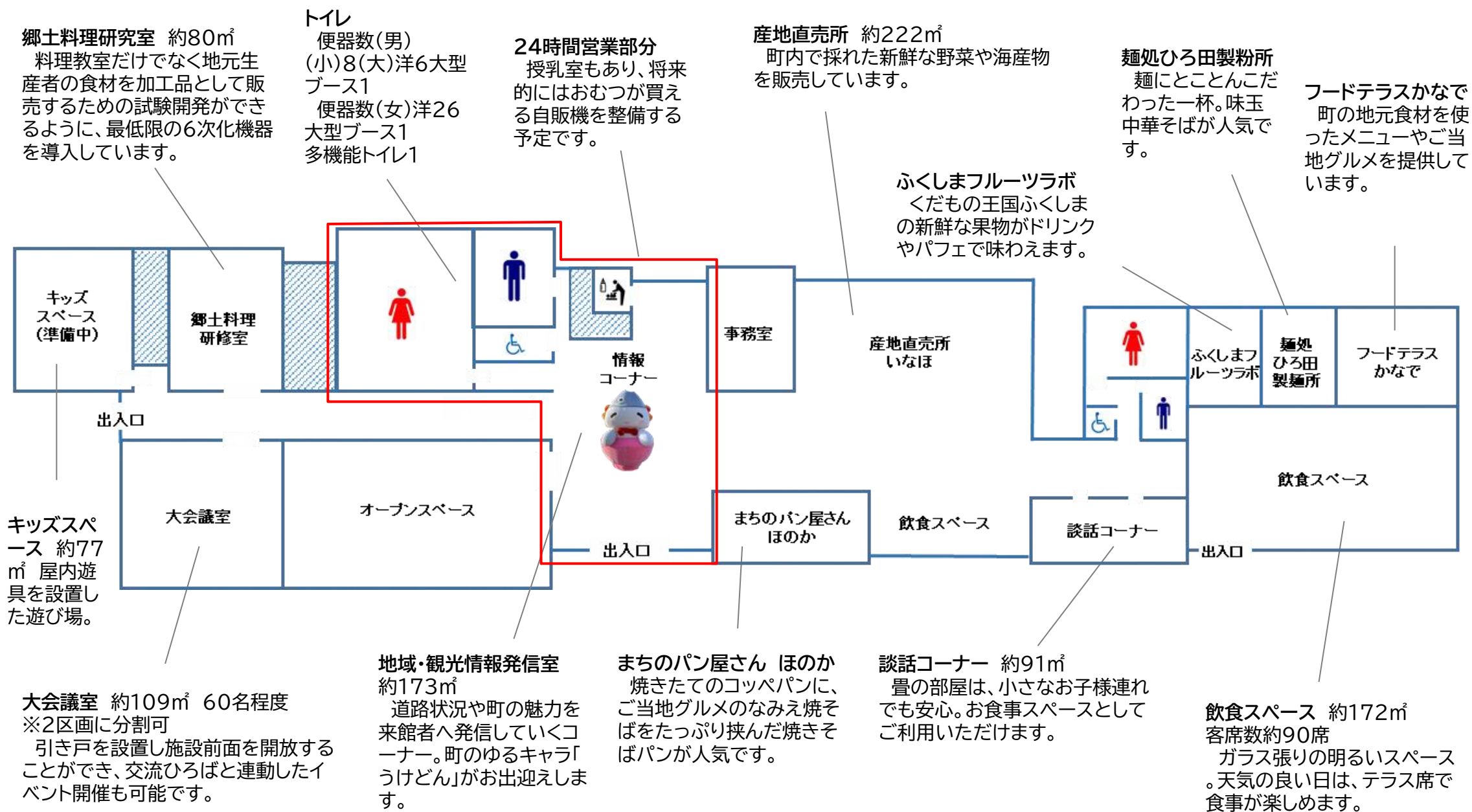


無印良品



【地域振興施設】 開業日:令和2年8月1日 建屋面積:約2,000㎡(木造平屋建)

地域住民にとっての憩いの場であり生活を支える施設となり、観光客にとっては町の玄関口として町の魅力と情報を手に入れることができる交流と観光、情報発信といった多機能型施設。



概要

「地場産品販売施設」は、浪江町が誇る産品である「大堀相馬焼」や「日本酒」を販売するほか、「走り馬」の絵付けなど、陶芸を体験することができたり、搾りたての日本酒を味わったりすることもできる浪江町の歴史や文化に触れられる「体験型商業施設」です。



地酒エリア(酒蔵)

酒蔵では、一年を通じて仕込みを行う「四季醸造」を採用。春夏秋冬を問わず、搾りたての日本酒を提供します。精米や仕込み、瓶詰まで、酒造りの工程を見学できるコーナー、手頃な価格で試飲できるコーナーも併設しています。

大堀相馬焼エリア

熟練した職人の指導の下「世界に一つだけの大堀相馬焼」を創ったり、窯元が丹精を込めて製作した逸品を購入することができます。

【地場産品販売施設】開業日:令和3年3月20日

建屋面積:約1,000㎡(木造平屋建、一部RC構造も含む)

浪江町の伝統産品である大堀相馬焼と地酒の販売や陶芸体験などができる体験型商業施設。



大堀相馬焼施設
ガス窯、電気窯やろくろ、土練機などを揃えた工房です。

cafe&SAKEBAR(カフェと日本酒バー)
おつまみなどの軽食と地酒を提供する小型飲食店。搾りたてのお酒を提供できます。

地酒醸造施設
仕込みから出荷まで行える酒蔵施設。麹室や洗瓶・瓶詰室をガラス越しに見学できます。

物販販売施設
大堀相馬焼や地酒、その他の産品を販売する施設。

陶芸体験コーナー
オリジナル大堀相馬焼を造れる体験コーナーです。自分で作った器で、磐城壽を請戸で上がった魚で飲むのはまた格別のうまさです。

地酒醸造施設

運営事業者 株式会社鈴木酒造店(浪江町)

創業

鈴木酒造店の酒づくりの歴史は、もともとの生業である江戸出しの廻船問屋を営む傍ら相馬藩より濁酒製造を許されたのが始まりで、天保年間には製造を行っていたという記録があります。

東日本大震災

2011年3月11日の東日本大震災で全建屋が流失し、蔵は福島第一原子力発電所から直線距離で7kmの場所にあり、原発事故によって避難指示が出されてしまいます。

震災の約2ヵ月前に研究目的で福島ハイテクプラザに送っていた「酒母」が残っているという知らせを受け、諦めることなく震災前の浪江の酒の再現に向けて動き始め、2021年10月に山形県長井市内の酒蔵を取得。「株式会社鈴木酒造店長井蔵」として酒造りを再スタートを切りました。

浪江町への帰還

長井蔵はそのままに、2021年3月浪江町の道の駅「道の駅なみえ」に隣接する形で「なみえの技・なりわい館」の中の地酒醸造施設事業者として入居。浪江産の米や米麹を使って浪江町で酒造りを行っている。



概要

福島県浪江町大堀地区に伝わる「大堀相馬焼」は、江戸時代からの歴史を有しており①青ひび、②二重焼き、③走り駒などの特徴を有し、地域で広く親しまれてきた伝統的工芸品（経済産業大臣の指定を受けた工芸品）です。

2011年3月の東日本大震災と原発事故により、20軒以上あった窯元はすべて町外へ避難を余儀なくされてきましたが、約半数の窯元が各地で窯の再建を果たしています。

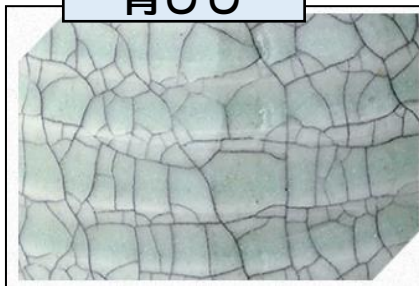
大堀相馬焼協同組合としても、2021年3月に浪江町に誕生した、道の駅なみえ地場産品販売施設「なみえの技・なりわい館」内に事務所および工房を設け、大堀相馬焼製品の販売や陶芸教室などを実施しています。

3つの特徴



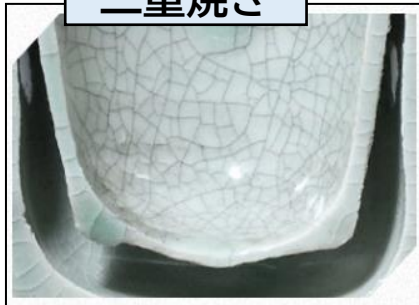
大堀相馬焼協同組合HP

青ひび



素材と釉薬（ゆうやく）との収縮率の違いから生まれる「ひび割れ」を貫入（かんにゅう）といい、青磁釉の器全体にこの貫入が広がった特徴的な地模様を「青ひび」と呼びます。

二重焼き



二重の構造は大堀相馬焼独特の技法です。
入れた湯が冷めにくく手に持っても熱くありません。

走り駒



現在の浪江町周辺をかつて納めていた相馬藩の「御人馬」を描いたもので、「走り駒」の躍動する姿は、昔から縁起が良いものとされてきました。

伝統的工芸品シンボルマーク



伝統的工芸品指定年月日（大堀相馬焼）
⇒昭和53年2月6日
※国が指定した伝統的工芸品237品目
（令和4年3月18日時点）

全国初！「ラッキー公園」が開園

概要

株式会社ポケモンより、浪江町を含む県内4市町村(郡山市、柳津町、昭和村、浪江町)に対し、ラッキーをモチーフにデザインされた遊具が寄贈され、「ラッキー公園」が整備されました。

遊具の寄贈や公園の整備は**全国初**の取り組みとなり、浪江町では、2021年12月12日に「ラッキー公園」が開園しました。また、浪江町は「ポケットモンスター」の原作者・田尻智さんのお父様の出身地で、ゆかりのある町です。
※福島県では、2019年2月に株式会社ポケモンと連携協定締結し、ふくしま応援ポケモン「ラッキー」を活用した様々な取り組みにより県内の活性化を図っています。

道の駅なみえの敷地内
には、ラッキーのポケ
ふたもあります！



「ポケふた」HP



「ふくしま応援ポケモン」のラッキー
をメインに、ラッキーとさまざまな
ポケモンたちが公園遊
具のモチーフとして
デザインされています。

ポケモンだいすきクラブ HP ▶

